

項目	説明	
試料・情報の 利用目的 及び 利用方法	研究課題名	尿膜管癌の予後予測因子に関する観察研究
	研究目的	尿膜管癌は膀胱腫瘍の1%未満と稀な疾患であり、発見時に進行していることが多く、予後不良な疾患です。本邦での多数例の集積の報告も少ないのが現状ですが、当院は比較的尿膜管癌の症例が豊富です。当院で2010年9月より2023年7月までに当院で尿膜管癌と診断された患者さんの背景や病期分類、病理学的因子、治療と予後との関連性について比較、観察研究を行います。当科の診療実績を客観視し、治療成績の向上など重要なエビデンスの構築が期待されます。
	研究対象者	2010年9月から2023年7月に当センター泌尿器科にて尿膜管癌の治療を受けた患者さん。
	研究期間	西暦 2023 年 7 月 31 日 ~ 西暦 2028 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の管理についての 責任者	当センター研究責任者	鈴木 敦人
試料・情報を 利用する者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	泌尿器科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし
試料・情報の利用停止および 情報公開に関する窓口	神奈川立がんセンター 泌尿器科 鈴木敦人 院内 PHS5439 利用停止のお申し出は2025年3月31日までお願いいたします	